

オープン市場短信 (2005年2月)

2005.2.4

1月のCP市場動向

1月のCP新規発行は、約3兆5千億円(ABCP・金融機関発行CP除く)と期落ち(約3兆1千億円)を上回った。ノンバンク・リース会社はとくに資金調達ニーズが強く、期落ち比約40%増となる約1.1兆円程度の発行があった。12月にショートタームの発行が多かったことから、1月はその期落ち分のロール案件が多く、大方が継続されたと思われる。期間は引続きショートターム物が目立ち、期越え物はノンバンク・リース会社中心(約5,600億円)に9千億円台に止まった。CP発行レートは低位安定、ほぼ横這いとなった。一部発行量の多い銘柄や償還期日の重複する銘柄では、やや強含むものもあったが、全体としては期越えのプレミアムも縮小方向、弱含みとなる銘柄が多かった。

銘柄別の発行レート

【最上位格付け銘柄】 期内物 0.003~0.01%割れ、期越え物 0.005~0.02%近辺。

【オペ適格銘柄(a-1)】 期内物 0.005~0.01%台前半、期越え物 0.012%~0.03%近辺。

【ノンバンク・リース会社】 a-1+銘柄 期内物 0.003~0.01%割れ、期越え物 0.008%~0.02%近辺。a-1 銘柄(オペ適格) 期内物 0.012%~0.04%近辺、期越え物 0.01%台前半~0.05%台半ば。

【a-2 格銘柄】 0.01%台前半での出会いから 0.10%を大きく下回る出会いであった。

CP オペ

ABCP 買切りオペは、1月は12日と24日の2回オファーされ、オファー金額はいずれも1,000億円。前月同様、オペ参加ディーラーは限られ(銀行2行・短資2社)、落ち着いた対応で平均落札利回り較差は0.000%(前月は0.001%)と低下した。

CP 現先オペは、通常の期間(2ヶ月弱)のオペが期日にロールされたほか、他の資金供給オペで札割れが頻発していることやCPの発行期間が短期化していることなどを睨んで期間の短い3週間物のオペが追加され、20日・27日にオファーされた。しかし、27日オファーのオペは1月最大のCP大量発行日に当たっていたため、引受業務に忙殺されていたディーラーの中には、応札を見送った先もあったようである。

1月末のCPオペ残高は、ABCP買切りオペが1,281億円、CP現先オペが3兆4,373億円(内資産担保CP 7,971億円/短期社債 5,010億円/資産担保短期債券 1,060億円)となった。

ABCP

1月末のABCPの発行残高は、5兆7千億円程度と前月比約4千億円減少した。前年比でも約5千億円の減少となっている。昨年9月以降は、10月末を除いて発行残高の前年割れが続いており、ABCPの組成 流動化ニーズの後退がはっきりと表れている。企業のバランスシートの改善が進み、アセットを減らすことを積極的に行なわなくともよいことがその理由であろう。

現先市場

月中現先レートは、0.004~0.008%のレンジでの出会い。

2月のCP市場動向

2月中のCP償還は、約3兆1千億円（前年同月比1,400億円減）となっている。運用難の状況には変わりがない上、日銀のCP買現先オペが増額されていることもあって、期内物の新規発行レートは横這い圏で推移しよう。期越え物のレートは、一般事業法人発行分については期末有利子負債圧縮のため発行が減少すること等から低下方向、リース会社については概ね横這いで推移すると見られる。

現在までのところ、電子CP発行レート面への影響はまだ見極めがたいが、印紙税の特例措置が3月末で廃止されることから、リース会社中心に電子CP発行準備のため、一時的に期越えでやや長めの発行を行なう動きがみられている。

CPオペ

ABCP買切オペは、例月同様月2回の実施となるだろう。現先オペも2月期日到来分が全額ロールされるだろう。日銀の資金供給オペが軒並み札割れになっていることから、期間を短くするなどの対応を行なった上で、追加オペの実施も考えられる。

現先市場

月中現先レートは、T/N・S/Nともに0.003~0.007%、ターム物で0.005~0.008%近辺での出合いを予想。

（松倉）